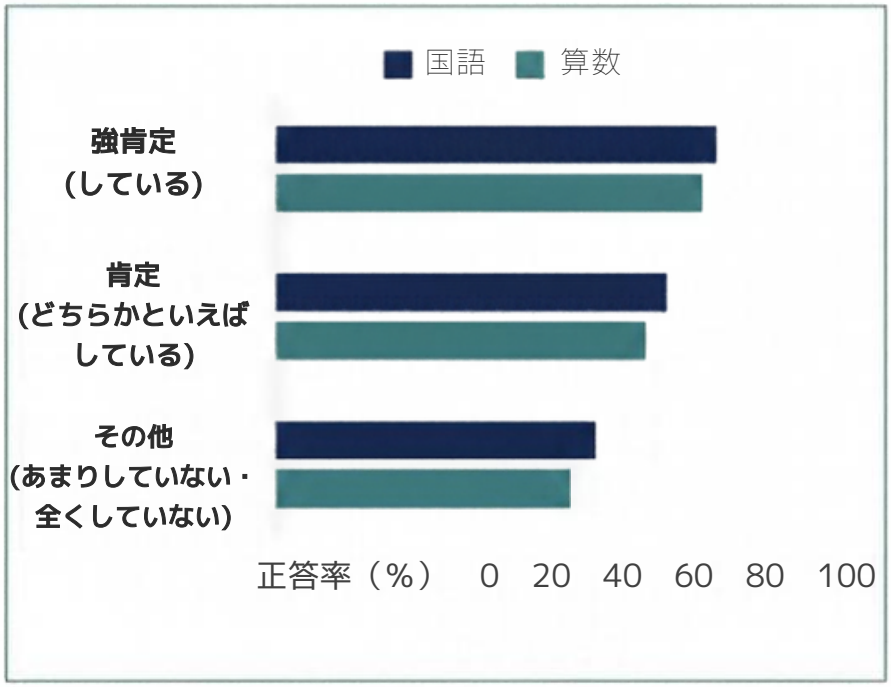
羽曳野市立高鷲北小学校　R８全国学力調査より

回答別に正答率を比べたところ、生活習慣と学習の関係が見えてきました。

良い生活習慣や学習への前向きな意識が高い子どもほど、正答率が高い傾向が見られる

毎日、朝食を食べる

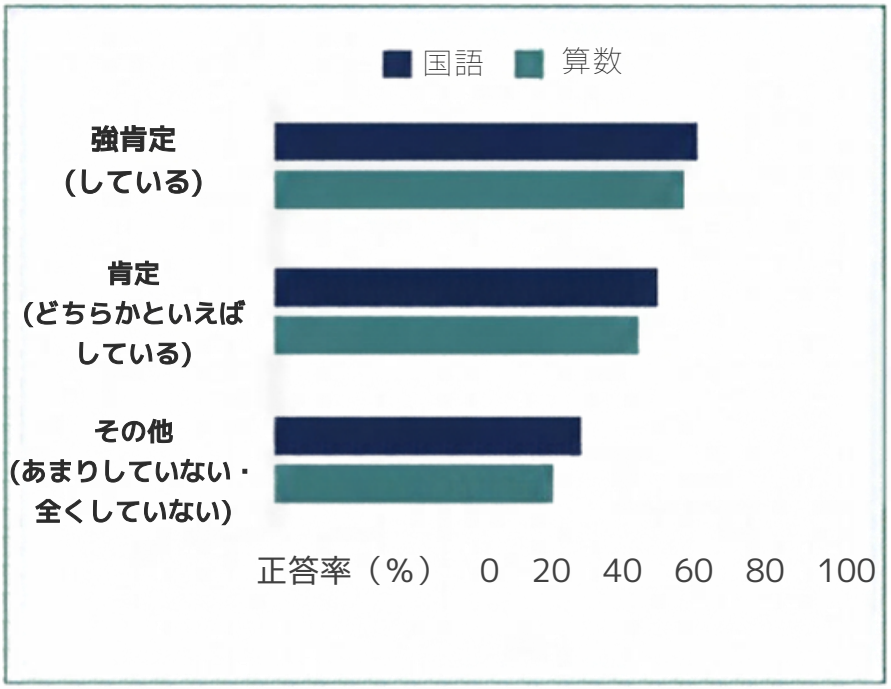


「朝食を毎日食べている」と回答した子どもほど、正答率が高い傾向が見られます

「している」層は「その他」と比べて、国語で20ポイント、算数で22ポイント高くなっています。

一部に例外やばらつきも見られるため、すべてに当てはまるとは限りません。

毎日、同じくらいの時刻に寝る



「同じくらいの時刻に寝ている」と回答した子どもほど、正答率が高い傾向が見られます

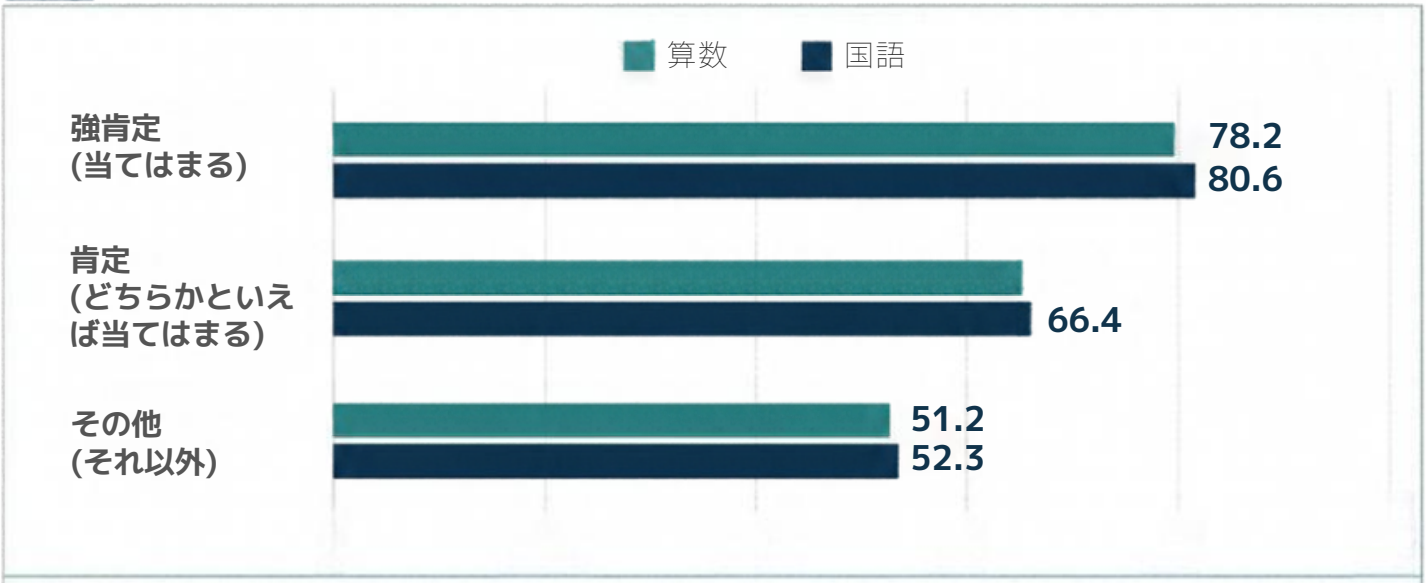
「している」層は「その他」と比べて、国語で19ポイント、算数で22ポイント高くなっています。

一部に例外やばらつきも見られるため、すべてに当てはまるとは限りません。

※正答率は回答区分ごとの平均。数値は%。回答区分は内容に応じて3区分に整理。

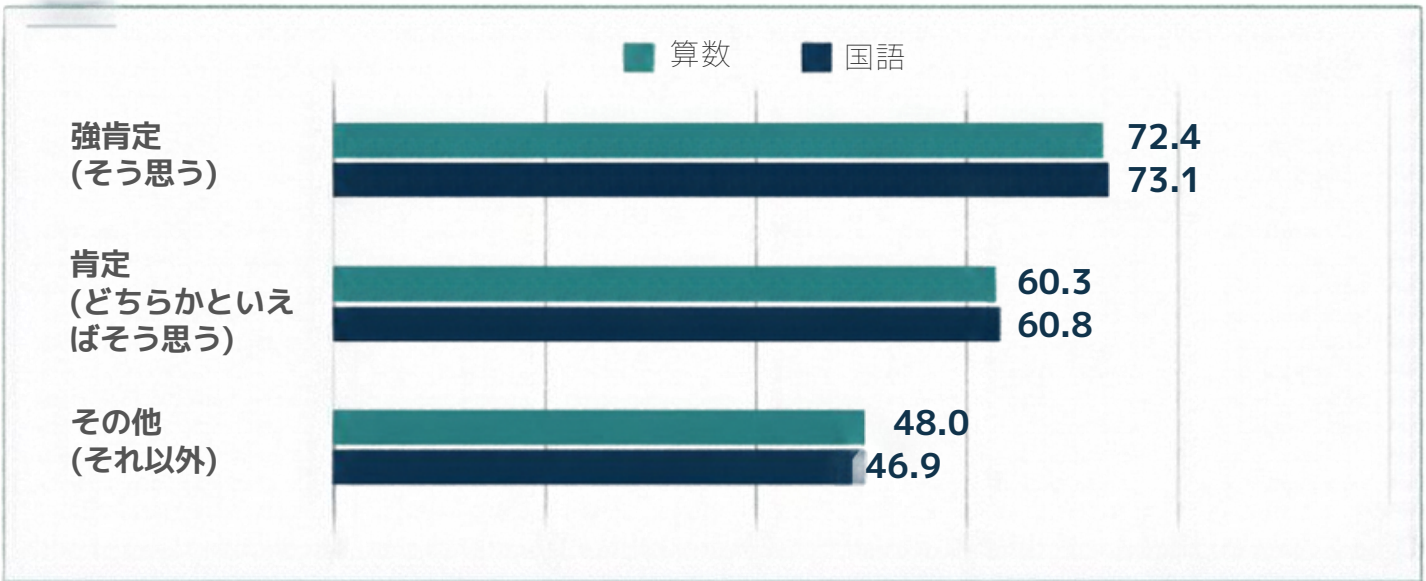
学びを認めることと、情報を整理する力

先生が自分のよいところを認めてくれる



「先生が自分のよいところを認めてくれる」と強く感じている子どもほど、国語・算数ともに正答率が高い傾向が見られます。国語は区分間の差がやや大きく、算数は全体的に高水準で、区分間の差はやや小さめです。一部に例外も見られ、項目によって差の出方は異なります。

ICT機器で情報を整理する

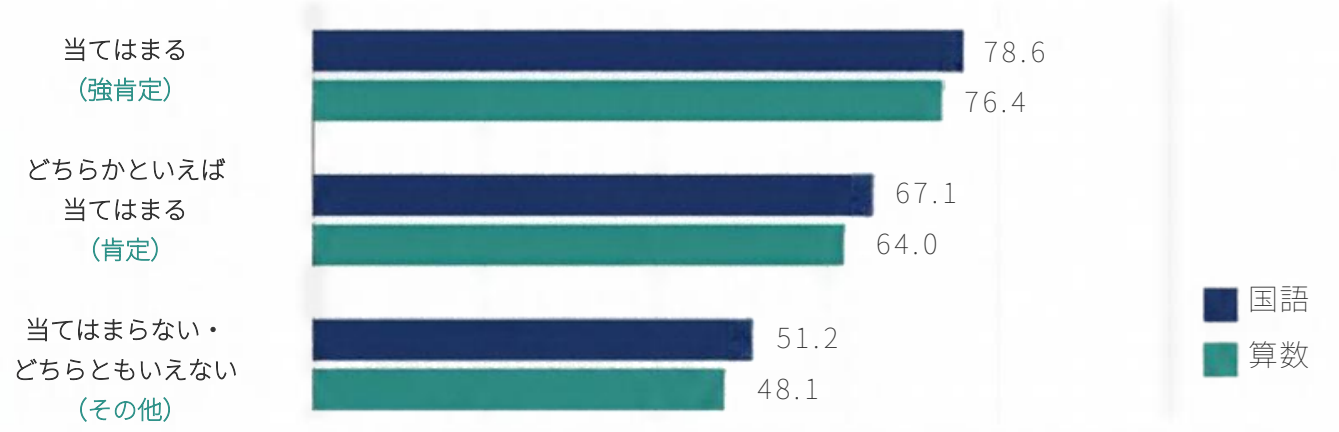


「ICT機器で情報を整理する」と強く思っている子どもほど、国語・算数ともに正答率が高い傾向が見られます。国語の方が区分間の差がやや大きく、ICT活用の意識と国語の正答率の関連がやや強い傾向が見られます。

※正答率は回答区分ごとの平均。数値は%。回答区分は内容に応じて3区分に整理。

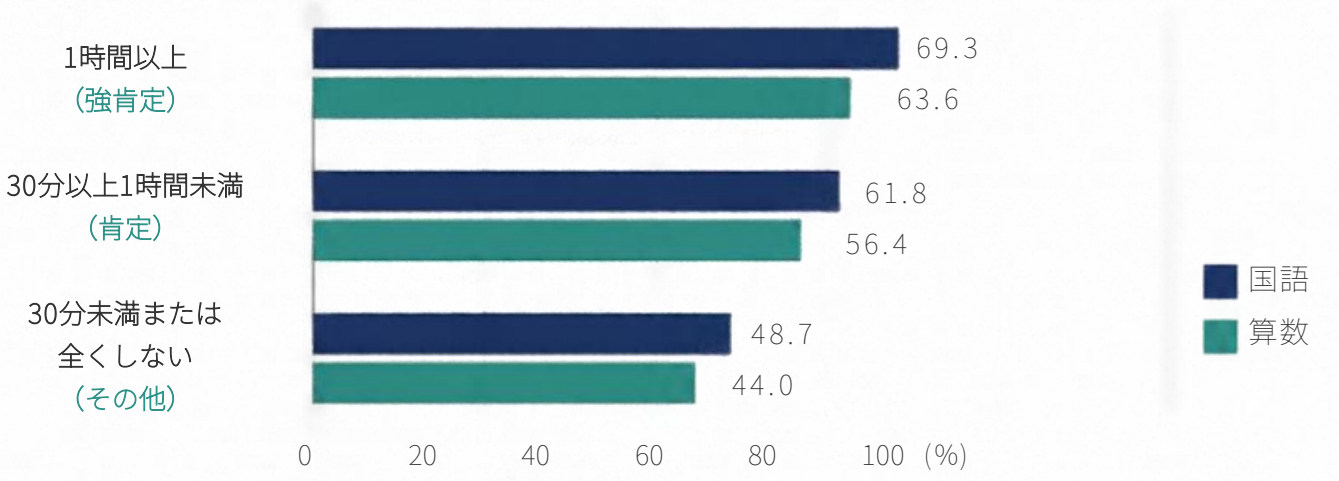
良い生活習慣や学習への前向きな意識が高い子どもほど、正答率が高い傾向が見られる

5 総合的な学習でICTを使って情報を集め、整理し、発表する



ICTを活用して情報を集め、整理し、発表することに「当てはまる」と回答した子どもほど、国語・算数ともに正答率が高い傾向が見られる。
「どちらかといえば当てはまる」と「その他」の差は国語で約16ポイント、算数で約16ポイントと、活用頻度による差が見られる。

6 授業以外で読書をする時間



読書時間が長いほど、国語・算数ともに正答率が高い傾向が見られる。
読書時間が「1時間以上」と「30分未満または全くしない」の差は、国語で約21ポイント、算数で約20ポイントと、大きな差が見られる。

毎日の生活リズムを整えること、学びを認め合うこと、
ICTを活用して考えること、読書に親しむことを、
家庭と学校で一緒に支えていきましょう。

※正答率は回答区分ごとの平均。数値は%。回答区分は内容に応じて3区分に整理。